

三線に関する参考資料

三線の源流 ~中国から沖縄へ~

三線(さんしん)とは、14世紀末から15世紀にかけて中国から持ち込まれた楽器(三弦)をもとにこれを改良して作られた楽器である。そして16世紀半ばに本土に持ち込まれ、三味線へと姿を変えていくのである。

三線の胴皮は沖縄に棲むハブの皮ではない。ハブは体の直径が2~3cmしかない小さな蛇だから、三線の胴に張るような大きな皮を得るのは不可能だ。三線の胴を張るには、模様がきれいで幅、30~40cmくらいの皮が取れる蛇が必要だがそんな大きなヘビは沖縄にはいない。

沖縄で昔から使われているヘビの皮は、中国南部や東南アジアに棲息する大型のニシキヘビである。現在はタイから皮を輸入している。

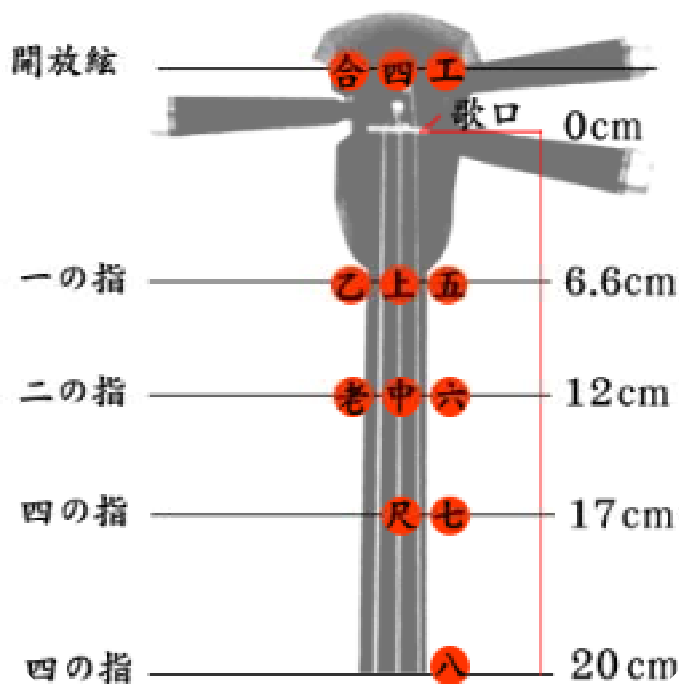
工工四(くんくんしー)

沖縄の三線の楽譜が工工四である。

中国の記譜法である工尺譜(こうしゃくふ)をもとに沖縄風に改良して作られた。現存する最古の工工四は18世紀のものとなっている。

弦を押さえる位置(勘所)を工・老・四・上...などの文字記号で示す。

工工四のポジション




四	夕	中	チ	四	中	てい ん さ ぐ ぬ 花
合		中	い	合	中	
老		工	サ	老	尺	
四	ト	六	チ	四	上	
工	サ	〇	ニ	工	上	
中	チ	七	ス	中	四	
中	ム	〇	シ	中	合	
工	ス	六	ミ	尺	老	
尺	ス	六	ミ	尺	四	
中	ミ	七	チ	中	工	
四	リ	中	ウ	四	中	
合		中	サ	合	中	
老		尺	ス	老	工	
四		上	シ	四	尺	
工		上	シ	工	上	



島唄


宮沢和史


三線 
台 老 四 中 尺 工 六 七 工 六 七 尺 尺 中 尺


上 四 老 上 四 台 老 四 中 尺 工 六 七


工 六 七 尺 尺 中 尺 上 四 老 上 四 台 老


四 四 中 尺 工 六 七 工 六 七 尺 尺 中 尺 上 四 老 上


四 四 四 乙 中 工 中 中 上 四 四 乙 合 乙 四 上


中 中 工 五 上 中 上 四 四 上 中 上 工 六

21 **B** %

七 七 八 七 六 I 六 七 八 七 六 I I 尺 I 上 I 老 上

24

四 I 六 七 七 八 七 六 I 六 七 七 八 七 六 I I

27 *To Coda*

尺 尺 I 上 I 老 上 四 合 老 四

C

I I 尺 I 六 八 七 七 六 I I 六 中 尺

35 **D**

中 中 五 六 七 四 四 四 四 上 中 上 I 六 四 I 六

39

七 七 八 七 六 I 六 七 八 七 六 I I 尺 I 上 I 老 上

E

四 I 六 七 七 八 七 六 I 六 七 七 八 七 六 I I

43 1 2

尺 尺 I 上 I 六 八 七 I 六 尺 尺 I 上 I 老 上

48 3

四 I 六 尺 尺 尺 I 上 I 老 上 四